# With Me With Us

特集 地域包括ケアシステム

## ともに私たちと、明日へ

**現在、登米市の人口は８０８７４人。このうち65歳以上の高齢者は２６４５７人で、高齢化率は32.７％という状況を迎えている。**
**生活スタイルも変わり、個人主義、核家族化が進み、独り暮らしの高齢者も増加傾向にある。年を取っても生きがいや喜びを持ち、元気に生活することは全ての市民の願い。**
**今号では「地域包括ケアシステム」を通じて、いつまでも自分らしく、幸せに暮らすために必要なことを考える。**

※【団塊の世代】第二次世界大戦直後（1947～1949年）の第一次ベビーブームが起きた時代に生まれた世代を指す。

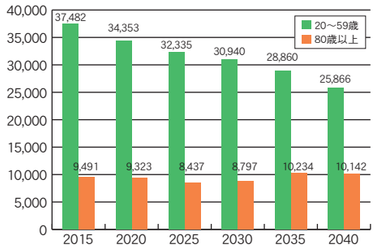
### 超高齢化時代を地域で支える包括ケア

現在、市の65歳以上の高齢者人口は、２６４５７人（２０１８年２月末現在）。人口８０８７４人に対する割合は32・７％となっている。人口比率の高い「団塊の世代（※）」が高齢者世代に突入。本市は、誰もが経験したことのない超高齢化時代に直面している。

本市の将来の推計人口は、15年から40年までの25年間に、80歳以上の高齢者人口が１０６・９％に増加、20～59歳の就労世代人口が69・０％まで減少すると予測されている。15年には１人の高齢者を３・９人の就労世代が支えていたのに対し、40年には２・６人まで減る計算になる。

厚生労働省の推計では、団塊の世代が75歳以上になる25年以降は、65歳以上のうち５人に１人が認知症になると見込んでいる。このことから、介護や医療を必要とする人が増加することで、サービスを提供する人材や財源などの不足が懸念されている。また、独居高齢者も増加傾向にあり、生きがいの低下をはじめ、消費者被害の増加、認知症の進行の恐れがあるなど、新たな問題への対応を考えなければならない。

多くの高齢者が、核家族化の進展など、社会の構造が変わっても「最期まで住み慣れた地域で暮らしたい」と口にする。自分たちが生まれ育ち、長く暮らしてきた場所で生活したいのは、人として当たり前の考え。

市は、高齢者が地域で生き生きと生活できるよう「地域包括ケアシステム」の構築を進めている。地域の「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を一体的に提供できる体制を整備していくもの。地域で求められているものはさまざま。年を取っても生きがいや喜びを持ち、元気に生活するために、各地域でさまざまな取り組みが進められている。

**就労世代（20～59歳）と80歳以上の人口比較**